

中学校国語科における 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて



単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが大切です。
その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図るようにしましょう。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」p.131を基に作成

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」の視点	「対話的な学び」の視点	「深い学び」の視点
<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場면을計画的に設けること 生徒たちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、生徒たちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすること 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士、生徒と教職員、生徒と地域の人々が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場면을計画的に設けること 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉による見方・考え方」を働かせ*、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けること

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」pp.130-131を基に作成

注)「『言葉による見方・考え方』を働かせ*」

「言葉による見方・考え方」を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

重要!

特に「深い学び」の視点に関して、学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」です。「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」p.12、p.132を基に作成

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「生徒の学びの姿」と、「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。双方を行き交いながら授業改善を行い、資質・能力を育成していきましょう。なお、本プロジェクト研究において、「生徒の学びの姿」と「生徒の学びの姿を実現する教師の働きかけ」の一例を、以下のようにまとめました。授業改善を図る参考資料として御活用ください。

	生徒の学びの姿	教師の働きかけ(例)
「主体的な学び」	学ぶことに興味や関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 話題や題材の設定を工夫する。 単元で身に付けたい資質・能力が、生活や学習のどのような場面で役立つかを示す。
	見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに、単元の見通しをもつ場面を設定する。
	粘り強く取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 一人でも考えることができるように、ヒントカードを準備したり、ワークシートで思考を可視化できるように工夫したりする。 複数の具体例やフォーマットを提供し、生徒一人一人の特性や学習進度などに応じて選択できるようにする。
「対話的な学び」	自分の学習活動を振り返って次につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の終末に、単元を通して身に付けることができた資質・能力を振り返る場面を設定する。
	生徒同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	<ul style="list-style-type: none"> 自他の考えを可視化し整理することができるように、1人1台端末のホワイトボード機能などを活用して考えを共有できるようにする。 立場を明確にした交流を行うことができるように、話し合い活動の前に、自分の考えとその根拠をもたせるための時間を確保する。
「深い学び」	本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かす。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを深めることができるようにするために、情報の整理の仕方を示す(比較する、関連付ける、順序立てる、分類する、構造化する等)。
	「言葉による見方・考え方」を働かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 言葉で理解したり表現したりしながら、広げたり深めたりした考えを、確認したり関連付けたりできるように、学習したことについて文章で書く場面を設定する。
	知識を相互に関連付けてより深く理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識及び技能を関連付けることができるように、学習過程の中で既習の知識及び技能を活用・発揮する場面を設定する。
「深い学び」	情報を精査して考えを形成する。	<ul style="list-style-type: none"> 情報を精査することができるようにするために、集めた多様な情報を比較したり関連付けたりする場面を設定する。
	問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに問題を見だし、言葉による見方・考え方を働かせながら解決策を考える単元構成にする。 学習したことによるどのような価値があるかを認識できるようにするために、実生活や既習事項、他教科との関連を想起できるようにする。

国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」、佐賀県教育センター「令和5年度 個別実践研究(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実)」、「平成29・30年度 プロジェクト研究 中学校国語科教育研究委員会」より作成

ICTを積極的に活用するなどして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていきましょう。なお、授業改善の具体については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた[授業改善事例【事例Ⅰ】](#)[【事例Ⅱ】](#)[【事例Ⅲ】](#)を御参照ください。

